日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト

北海道支部だより
（しれとこすみれ）

第7号　　2003年3月10日

一年間を

振り返って

思い出して

文と写真

北国の山は素晴らしい、されど我ら中高年

大内　倫文

野に山に、中高年は疲れを知らずに頑張っている。そう言う私を含めHAT-J北海道支部の会員のほとんども中高年である。HAT-Jに入会した動機は千差万別の感があるが、ただ共通する点は自然が好きなことだろう。現在、支部活動としては年１回の清掃登山を軸に幾つかの小さな登山をしながら親睦を図っている。会員の中には、社会人山岳会や愛好会に所属して四季を通じて厳しい登山や海外登山に燃えている人もいるし野の花を見ながら低山徘徊を楽しみにしている人も多い。いずれにせよ、個々の技量の有無はさておき自然に接することの好きな中高年に変わりはない。

近年、中高年の遭難事故のニュースに接する機会が増えている。過去にどんなに素晴らしい登山経験があるにしても、年齢と共に体力が低下するのを避けられないのが事実である。我ら中高年が事故に遭遇しないためには、初心に戻り常に自然に対し謙虚に接する事が何よりであろう。そして、いかにゆとりを持って楽しむかであろう。幸いにも支部の仲間達においては、事故に無縁であるのは嬉しい限りである。

一昨年ほど前から続く道内の山での事故死における要因のほとんどは、疲労凍死と滑落である。それも、そのほとんどが道外からのツアー登山客である。このようなことは、一昔前まではなかったことでもある。従って、百名山ブームから始まったツアー登山にその起因があると言っても過言ではないだろう。

すばらしい装備、ゆとりある時間、貴重なお金はいかに使われているのだろうか。山登りをする人はもちろんのこと登山を企画する側の人も、明日はわが身と思って再考する必要がある。

一連の山の遭難事故に関し、今年の「山と渓谷」２月号に“北海道の山を安全に登るために”と題して札幌の総合病院の医者M氏が寄稿している。氏は医学的な立場からではなく、自分自身の登山者の立場から近年の事故に関して苦渋を述べている。

２０００年９月の羊蹄山における女性２名の事故、２００１年６月の十勝岳における男性１名の事故、同年７月のトムラウシ山における女性１名づつ２件の事故についてのコメントがある。いずれも、死亡当事者は中高年であり、死因は疲労凍死、そしてこのうち３件はツアー登山であ

った。いわゆる、そのほとんどが判で押したように同じ特徴を持っていた事を言及している。その原因を次の３点に絞っている。①予備日を設けない無理な日程。（日程に余裕が無く、飛行機の便や予約したホテルのことなどが優先）②悪天候や沢の増水を軽視する。（悪天候の中で登山を強行し道を見失ったり、増水した危険な沢での渡渉の失敗）③北海道の山が標高が低い為、登山を安易に考えている。（本州の山の基準で考えて、防寒対策が不十分である）　そして最後に、登山者自身の無理・無謀・無知が原因となっていることが事実であると結んでいる。まさにその通りであろう。

私達支部の仲間達も、これまで以上に用意周到を持って自然に逆らわず謙虚な姿勢で北海道の山々を満喫しようではありませんか。そして、山頂コレクターではなく、頂きまでのプロセスや温泉など下山後のアフターを楽しむことも含め、ゆとりある山登りを楽しみましょう。

九饗溝を旅して（平成14年9月10日～17日）

長時間移動の為か、巡回バスを降りてボーっとする頭で目の前に広がる大自然の景観、これぞ「九饗溝」だ、朝霧が上昇する静寂が辺りを包み仙境と表現して良いのか、山水の夢幻の世界に踏み込んだ感じ、

真っ青に澄んだ水,底までも透けて見える,陽光が差し込んで湖面が、藍色、又黄色、青色、緑色と、変化し色模様が広がり、吸い込まれそうな水の深遠を見る青さ、ガイドさんが説明してくださる。

樹正郡海に、火花海、臥龍海、老虎海、他に合計七十の湖沼と滝が数珠状に連なっているとか、私も木道を黙々とおぼつかぬ足取りで湖面を見ながら歩く湖面の中に珊瑚のように見える、えっと見直し、ガイドさんに聞いたところ、説明によると周りの石灰質が長い時間をかけ溶け出して付着し石灰化された物だそうです、水底にあるカルシュームを初めとした鉱物がいろいろ含まれており太陽の光によって変化して様々な色彩が広がり不思議な湖、で神々が宿る地であると言う。

海抜三千百メートルの長海にたどり着く、記念写真も撮らずに眺める最大最深の湖、週囲はヒマラヤスギ、かえで等の樹木が鬱蒼と茂っていて、雄大な景色、

この湖から流れ出る川が一筋も無く伏流水となって下流の湖に注ぎ込むそうです。

（九寨溝を旅して）

九寨溝は７８年自然保護区に指定され木材の伐採が禁止され９２年世界自然遺産に指定されたそうです。九寨溝の地名と成ったのは九つの集落があったことから、住民は皆その地で働いているとの事、女性は民族衣装でバスガイド、処所に立ったり座ったりしている、其れは観光客が樹木や草花、石灰化等を盗んだり傷めないように、見張り番をしてるそうです、一ヶ月の給料が日本円で１万８千円だそうで、民族衣装も支給されるそうです、ですから一切塵も落ちていず、動かずにその場に立っているだけでも大変な事だと感じました、厳しい大自然で生きてきた、民族だからこそと思う、

かなり年配の女性が手編みのかごを背負ってゆつくりと歩いている,チベット人は短命だそうです高地なので酸素が不足の為と言う事でした。

７月のエコーホーラムで田部井さんの講演会で聴いたアイデア抜群のトイレを体験する、一基が四百万円もするそうです、そこに５～７基が並んで設置してあり、女性用はどこも並んでいた、残念な事には照明が無い、用を済ませてドアーを少し開け足で押さえ身支度をしながら観察する、腰を上げると黒いビニール袋が便器の中に吸い込まれる、匂いも無く足元も清潔だ、トイレの裏に事務所があり女性が待機していた、私が出たとたんにブザーがなり女性がモップを持って飛んできて便座を上げ便器をはずし蓋をする、横に積み重ねてあるビール樽の様な真ん中が膨らんだ緑色のポリタンクに黒いビニール袋を入れる．その袋がちょうちんの用に伸縮されている、便座の下に入れて終了、その作業はわずか１分程その後も満タンになると又ブザーが鳴るようだ。

田部井さんの話ではこの便が燃料として利用されるそうです、無駄が無い。

自然保護区の広さ７２０平方キロメートルあり遊歩道全域が木道に成っており運搬方法迄はわからず。

この国では国の財産である自然遺産を徹底して守ってるそうです。

一日の入場者を１万２千人と決めており、私が入場した九月十二日は１万人、を数えたそうです、当然私たちの数１９名も含んでの事と思います、

田部井さんとの巡り会いが無ければこの目の前に広がる自然の色彩美に酔うことも無かった事と思う、標高４４００メイトルの雪宝峠も私、初めての体験でした、

この度の旅行も満足の旅でした。　有難う御座いました　合掌

伊藤ナカ子

「最近“山”を思うこと」　菊地聖子

汗が目に染みる、足がなかなか上がらない。でもこの辛さはいつか終わる、そう、頂上まで頑張れば･･･。登山をはじめた頃はよくこういう登りで頑張った自分を思い出す。どんな辛さも頂上からの展望を見ると喜びに変わり、辛さを忘れ向こうに見える山々にまた登りたくなったものだ。が、最近はすっかり穏やかな山登りに変わってきた。運動不足で足腰の衰えと反比例するうなぎ上りの体重の性もあるが、訪れる山々をとりまく自然や山麓・道中の自然に目が奪われてしまい、なかなか頂上へたどりつかないことが多くなってきた。
登山にはリズムがある。一定の速度で前進と休憩を繰り返す。そこから生み出されるペースが頂上へと導いてくれる。反面、自然散策などウォッチング形式は常にリズムが乱れっぱなしである。以前、ボルネオのキナバル山をウォッチングスタイルで登山したことがある。一気に2,000m近くも登る登山。朝からの体調管理はとても大切。なのに、登山日早朝より、山麓でバードウォッチング。朝食前にすでに一仕事した気分で登山スタート。登山中もまるで原色図鑑のような自然にキョロキョロしながら、立ち止まってはウォッチング。小屋は遅くとも3時まで、なんていう鉄則もどこへやら、到着は18時過ぎ。翌日未明のヘッドランプの星空登山。ご来光を仰ぎ、ピークや下りの景色を思う存分楽しみ、登山口へ下山したのは夕方近く。日数は通常の登山といっしょだが、一日フルに使ったウォッチング登山を今でも思い出深く残っている。
が、正直とても大変だった。体力も知力？も使い果たしたといった感。ものすごい充実感だったが、やはり登山とウォッチングは成立するには難しいと体感した登山でもあった。昔、登山なんて興味ない頃は、なんで登るのだろう??って全くの傍観者だった。登るようになると、頂上目指してもっと登りたい病にとりつかれ、登らない人は気の毒だなぁ～と、「山」をまるでハイソな物の象徴のように感じていた頃もあり、いずれも偏った見方だった。最近ようやく「山」というのは、様々な楽しみがあり、人それぞれによって違うということを、自分の中で許容できるようになってきた。さらには、自然だけでなくとりまく環境、そこに住んでいる民族や風習など、多種多様なものを見たり触れたり感じたり、すればするほど味が出る、まさに『山の幸』である。
その『山の幸』を訪れる人々がどう受け止めるかによって山の環境も変わってくるのではと思う。環境問題や保護など難しく考えずに、“家族や友人、好きな物を大切に思う”そんな思いで「山」と付き合えたらと思う。幸か不幸か職場がツアー会社で、訪れる場所も山々の周辺が多い。たいていの山々は国立公園や保護区などの素晴しい自然を抱えている。超特急登山もいいけどたまには素通りしてしまうのではなく、「山の幸」をじっくり味わいたいと思う。
昨日、香港バードウォッチングツアーから戻ってきた。香港に鳥を見に行く？というだけでも不思議なのに、さらに最終日、島を縦断するハイキング。ほとんど知られていない香港の自然。ビル群をとりまく山々、その意外性に訪れた人は驚かされる。標高０ｍからのハイクは低い山でも登り応えがあり、終点の海辺では海鮮屋台が軒を連ねる。歩いてきた山々を眺めながらの山の幸ならぬ「海の幸」に舌鼓。トレッキング大国とはまた一味違った楽しさがある。身体も心も元気になるような旅を「山」を通じて紹介してゆけたらと思う。いつまでも様々な「山の幸」を楽しめる環境があってほしいと願わずにはいられない。また、そんな思いを抱かせてくれる「山」に感謝!!

「会員番号 121
氏名 水越 武
住所 弟子屈町屈斜路 183-4

◎近況をお知らせ下さい。
ご意見をお書き下さい。

30年来、屋久島に通っていました。
来春に「屋久島－多様性の回廊」
として講談社から出版の予定です。

「会員番号 1642 」
氏名 旭川市南2条通 2丁目
住所 池永 廸次

◎近況をお知らせ下さい。
ご意見をお書き下さい。

現在は旭岳ビジターセンターを定年退職し
北海道の認定した山岳ガイドとして山
と共に生きております。年末年始は連日
山とスキーで明けくれております。
子供達を山や自然に親しませたい
と常々考えております。HAT-J北海道
で何か妙案はないでしょうか。

「会員番号 2002 」
氏名 中西 律恵子
住所 大田市高砂台4丁目9-27

◎近況をお知らせ下さい。
ご意見をお書き下さい。

2002年は アイガモ農法を
やっている農家さんに 農業体験
に通っていたため いつもの年より
山へ向かう機会が少なくな
ってしまいました。

「会員番号 2002 」
氏名 渡辺 心
住所 伊達市 梅本町 [illegible]

◎近況をお知らせ下さい。
ご意見をお書き下さい。

謹賀新年
昨秋 大雪高原沼一周の
清掃紅葉ハイキングでは
眼一の紅に染まって満足
の一日でした。今年も あちこちと
単独清掃ハイク計画中です

空知の低山の旅

HAT-Jの仲間平岡さんと9月7日～8日(1泊2日)で栗山・滝川・雨竜の低山の山歩きを楽しんで来ました。9月7日(土)札幌を9時に立ち栗山へ向いました。駅から歩いて15分程の所に栗山公園があり公園の中には御大師山(115メートル)があり、四国新八十八ヶ所として、八十八の地蔵があり探索路が何か所もあり楽しみながら歩けるコースです。私達は地蔵をめぐりながらファーブルの森を下り、国の天然記念物となっている「オオムラサキ蝶」を飼育している建物に行きました。時期が終って成蝶は見れませんでしたが卵の着いた木が多くさんありました。御大師山の山頂には展望塔があり、田畑や街並が見渡す事が出来ます。御大師山は栗山周辺で育った人達の心の古里(故郷)の山と言われるだけあって、四季を通して憩いの場になっているのでは……。栗山を後にコスモス畑で有名な滝川市の丸加高原の標高286メートルの丸加山に向いました。山頂の展望広場までは車で行けます。丸加山に広がる500ヘクタールの草原に牛・馬が放牧され北海道の雄大さが堪能出来ました。コスモス畑は最盛期で色とりどりのコスモスが風に揺れ、草原の緑とのコントラストが見事で背景にして写真をパチリ……。苗は今より他の場所にも植られるとの事でもっと見応えのコスモス畑になるのでは……。この日は江部乙温泉に1泊。

9月8日(日)雨竜沼湿原へ……20年ぶりで訪れた南暑寒荘前はすっかり変り奇麗に整備されていました。管理棟で「環境美化整備等協力金」200円を払い入山します。湿原入口迄の道も整備され、花や景色を眺めながらのんびりと歩き堪能する事が出来ました。湿原入口には靴洗い場があり湿原に異界の種子入れない様に配慮されていました。

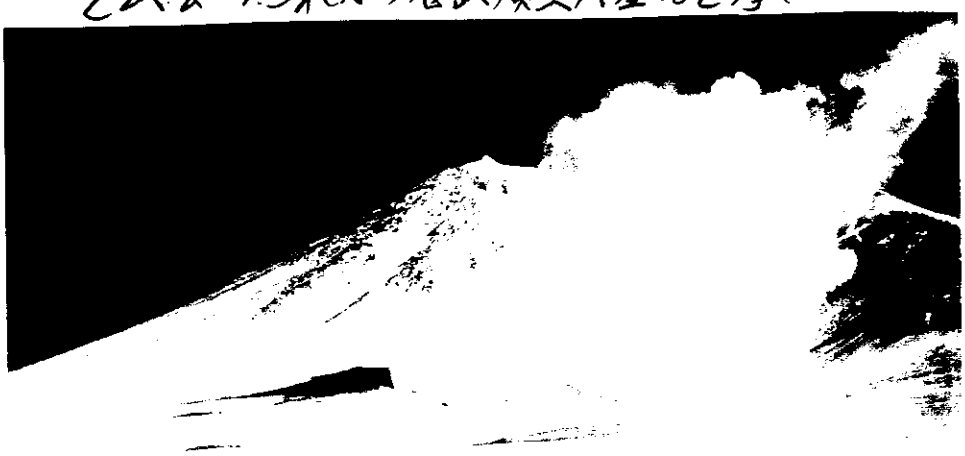
花はエゾオヤマリンドウがあちこちに咲き、湿原の草は茶色に変り遠くから見ると黄金の稲の様でした。
9月7日と8日の日中温度が30度を越える暑い日でしたが風に秋を感じながら、心のリフレッシュする事が出来、満足の2日間でした。

宮崎 初恵

初体験　スノーシューを履いて冬山に

平成15年2月22日～23日

2月23日、この日は雲一つない快晴。ロープウエイで姿見迄。スノーシューを履き、第一展望台に向って歩き出す。始めてにしては順調。一人は私だけかと思っていたら、男性が一人で写真を撮っていた。
展望台からは、360度ぐるり全ての山並が見える。特に旭岳が真近に迫って来る様だ。真白な噴煙が青い空に吸いこまれる様に流れ、神秘さえ感じる。写真を何枚も撮る。その向いには秋の紅葉がすばらしい。私の好きな、当麻、愛別、比布、鋸岳、そして大塚、小塚の山並が真白で始めて見る冬山の景色に興奮……。「すばらしい」声に出す。遥か向うに鐘と小屋が見える。そこに向って歩き出す。ヒダの雪模様の上を私だけのスノーシューの跡を残しながら……。旭岳、トムラウシ山、十勝連峰を見ながら……。旭岳に目をやると、スキーヤーが頂上めざして登って行く。鐘を鳴らす。私も登りたいなあー？何度も振り返りながら姿見に戻る。夫人が先に歩きだそうとしたら、下からスキーで、増山国立公園パークボランティア連絡会の岡花氏他3人と出会う。これから旭岳頂上に登るとの事（いいなあー。）気を取り直して歩き出す。時おり私の脇をスノーボードに乗った若者達が滑り降りて行く。私は一人声を出し演歌を歌いながらゆっくりと下る。冬山にすっかり魅せられた一日でした。



平岡武津

平成14年度を終えて

支部長　宮崎初恵

平成14年度は、「国際山岳年」「国際エコツーリズム年」という事で、旭川、上川町、大雪山を舞台にシンポジュウムと登山会が開かれました。HAT-Jの田部井代表が基調講演をし、野田理事が「登山者から見た山岳地域のオーバーユース」のパネリストとして参加した事もあり、北海道支部として協力しました。本州から33名の方々が参加し、協力した支部のメンバーと一緒に交流を深める事が出来ました。

平成14年度は、身近な山の情報をより多くの方々にお届けするという事で企画しました。そして、何回か発行できましたので、情報を伝えれたと思っていますが、札幌近郊の山の情報が主でしたので、平成15年度は、各地からの情報をお届け出来ればと思っています。

平成15年1月18日～19日 東京で支部長会議が開かれ参加しました。
①HAT-Jの運営、活動について。②今後の方針と予定について。をテーマに話しあわれました。

神崎理事長より、支部の人達同志の交流の場が少ないので、支部懇談会を年1～2回開く事が提案されました。
平成15年度は、第1回目として福島支部が担当する事になりました。
本州の方々との交流が多くなってきますが、いろいろの情報を取り入れながら、北海道支部の活動を発展させていきたいと思っています。

（役員会としての活動）

平成14年
4月12日（金）平成14年度総会資料他打合せ
5月17日（金）総会の最終打合せ
5月25日（土）HAT-J本部総会と懇談会に
6月13日（木）山岳エコツーリズムフォーラムに打合せ
7月22日（月）〃　の決算打合せ
8月11日（日）情報誌発送他の打合せ
9月30日（月）郵だより他の打合せ
12月26日（木）HAT-Jの打合せ（会長他）

平成15年
1月14日（火）写真展の打合せ
1月27日（月）総会、会報の件
2月12日（水）会報、総会資料の件
3月1日（土）平成14年度の総会資料他の打合せ
3月5日（水）最終の会報他の打合せ
3月10日（月）会報他発送のため

計14回集まりました。

２００２年ＨＡＴＡＪ北海道支部山行部報告

6月 今年最初の清掃登山は、札幌山岳写真倶楽部（北海道勤労者山岳連盟）と合同で毎年神威岳だったが雨のため中止となる。

反省として、会員の方や仲間が参加してくれたのに、雨天の場合の対策を考えておくべきだった。

7月 国際山岳年の旭岳より黒岳縦走は、風が強く旭岳山頂にて中止。

7月 札幌山岳倶楽部（札幌山岳連盟）と合同で、大雪山黒岳より桂月岳えとトイレの視察（バイオ）に入る。
高山植物のよい季節だったので企画としては良かったと思う。

9月北海道支部第７回清掃登山は、今年の天候にしては恵まれたように思う。詳しくは別紙

その他札幌近郊、恵山、早月山、有珠山等支部だよりにて実施した事もありました。

10月 万計山荘（札幌市空沼岳）当番は、札幌山岳写真倶楽部と合同にて実施致しました。

山行部長 杉林仁止

事務局長を引き受けて
事務局の反省点、について

桜沢俊昭

昨年の2月頃、支部役員の方々との会合打ち合せに顔を出して自然破壊、自然環境、自然保護などについて意見交流をしているうちに事務局長の仕事の話になり、何となく事務局長を引き受ける事になり、総会で新任されました。今、山岳環境をとりまく状況は、①オーバーユースの問題、②トイレ問題、③自然保護の啓発運動、個人のモラルや、マナーの向上など深刻な問題を抱えている時に事務局長を引き受けた責任の重さをひしひしと感じている所です。
また、事務局からの案内に不手際があり、会員の皆様には、ご迷惑をお掛けしました。不慣れな面ありました事をお詫び致します。
今後も事務局活動についてよろしくお願い申し上げます。

HAT-J北海道支部の活動を振り返って。
（山行の思い出……他）

平成14年6月2日（日曜日）
神威岳 —— 清掃登山（登山口に集合 参加者10名）
残念にも雨の為、中止

平成14年5月3日（金）
定山渓の朝日岳・夕日岳（参加者5名）

朝日岳も
夕日岳にも
カタクリ・エンゴサクの
花が綺麗に咲いて
天候にも恵まれ
楽しい登山が
出来ました。
（日帰りの湯に寄り）

伊藤　福沢　荒沢　杉林　（平岡字す）

平成14年6月22日（土曜日）
円山公園－八十八ヶ所の頂上－遊歩道－旭山公園－小林峠－
小別沢峠－円山公園へ。（参加者4名）

平成14年8月14日～15日（土～日）
有珠山 羊蹄山（参加者5名）

雨模様の
天気だったが
羊蹄山を登る
頃には晴れて
有珠山の噴煙の
迫力には一驚
見とれも思いだ
った。

平岡・宮崎・太田・伊藤　（和田字す）

平成14年8月25日（日曜日）

洞爺湖－早月山　（参加者HAT-J 6名、一般3名　計9名）

雨が心配でしたが下山迄降らず良かったのですが、前日に降った雨で登山口からの道は大変でした。
頂上からの360度の山並が見られなかったのが残念でした。
（洞爺村のハシいの家に泊り）

宮崎・伊藤・矢島・秋林・平岡・太田　（4人は年寄）

平成14年9月15日～16日（土曜日～日曜日）

十勝幌尻岳（全国一斉清掃登山）

参加者 HAT-J北海道 10名
〃 -J東京 4名
一般 3名

宿泊先－帯広八千代牧場
（日高連峰が見事でした。）

※平成14年7月13日（土）

旭岳登山（東京より軽登山靴の会 33名参加）

参加者 HAT-J北海支部 5名

※平成14年7月21日（日）

黒岳－石室－桂月岳（札幌山岳連盟合同）

参加者 HAT-J北海道支部 6名

（※北海道支部としての計画ではありません。）

平成14年10月19日～20日

空沼の万計山荘小屋当番

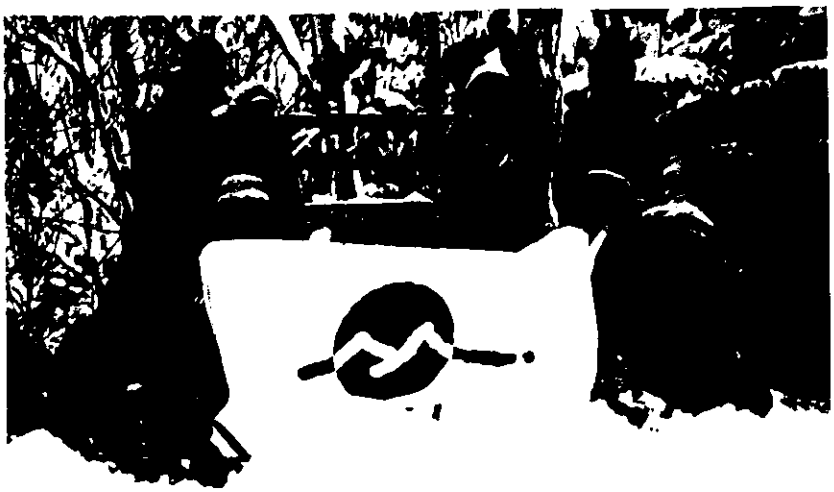
（参加者 8名）

平成14年11月3日～4日

燕山渓の7日岳・朝日岳・散策コース

（夏山紀行）　（参加者 MAT一丁 6名
一般 5名　11名

前の日に降った雪と
登りの時にも少し降って
結構積って、ラッセ
ルをしながら頂上に。
7日岳の下山後は
朝日岳と散策コースに
別れて一日を過ごす。
豊材荘で楽しい宴会
（温泉の湯が100%
原泉との事です。）



前列 左側 嶋・桜沢・南・伊藤　後列 左側 谷口・木・荒・石・陳

平成14年11月30～12日

函館の恵山

（参加者 7名）

後列
桜沢・伊藤

前列
嶋・木・平・桜
嶋・月・南・沢

（杉林 字）

11/3 恵山の途中で一休み
（この日はホテル恵風で1泊）

11/4は海向山に登る予定
でしたが時間の関係で中止、
次の機会を頼って帰路
に着く。
運転の杉林さん、ご苦労様
でした。

杉林・大月・宮崎・桜沢・桜沢・伊藤　（平岡 字）

平成15年1月20日～平成15年1月31日

NAT-J北海道支部

写真展を「つる」で。

出展者 8名

出展作品
大・中・小合せて
22点

（作品の題は大内氏がつけて下さいました。）

（出展者の作品名）

山口 斌……頂きの道程（3点）
- 無意根山へ
- 利尻ケシケ山へ
- 旭岳へ

増子麗子……。早春の仁頃山（1点）

杉林仁止……（4点）
- 北日高 十勝幌尻岳より
- トムラウシ山頂にて 他

伊藤ナカ子……（1点）
- 愛する孫

大槻静恵……（2点）
- 山懐に抱かれて－八甲田山
- 雨が上がって－万計山荘

宮崎初恵……（2点）
- 厳冬の前十勝岳

平岡武津……（中－3点・小－4点）
- 参別岳 ・チングルマ（沼の平）・裾合平 他

一般参加者……関原孝俊
- 斜面の菜の花（静岡県伊豆間町）
- 元気回復（長野県大村焼山）

平成15年1月25日
「つる」で
新年会
参加者15名
（内写真会員）

立ってる人 左から 斉藤・荒島・相沢・矢島・大槻・金井　（伊藤ナカ子さんは途中で退席。）

椅子に座ってる人 左から 相沢・大内・菊地・山口・平岡・宮崎・杉林・伊藤（ナカ子）

編集後記

HAT-J 北海道支部だより第7回目になります。第6号は急きょ引き受ける事になり原稿をお願いする時間もなく拙い支部だよりになりました。――が第7号は原稿も集り会報の本来の姿に戻れたのではと思います。第6号同様手作り会報で読みづらい箇所もあるかと思いますが中味の濃さでおゆるし頂きたと思います。これからも北海道支部らしい会報を続けてゆく為には、会員一人一人の協力が必要ですので今後共よろしくお願いします。

（平岡）

追記　同封しました袋は秀岳荘さんの好意で作って頂いたものです。

HAT-J 北海道支部だより
第7号　発行日 2003年3月10日
発行責任者　宮崎初恵
編集責任者　平岡武津

発行所
札幌市豊平区平岸3条18丁目3-1-445
事務局　椛沢俊昭
TEL・FAX 011-815-7767